

氏名	森澤 伸
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6554 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Risk factors for excessive postoperative exo-drift after unilateral lateral rectus muscle recession and medial rectus muscle resection for intermittent exotropia (前後転術後の戻りに関係する因子)
論文審査委員	教授 安藤瑞生 教授 大内淑代 准教授 山下 徹

#### 学位論文内容の要旨

##### 緒言

間欠性外斜視に対する片眼前後転手術症例において、術後の戻りに関与する術前因子について検討した。

##### 対象・方法

岡山大学病院で、2004 年 4 月から 2011 年 12 月までに片眼の前後転術を施行した 18 歳未満の 64 症例を対象とした。術後初回検査時の斜視角からの変化量を「戻り」と定義した。20prism diopters を超える戻りを認めた症例を A 群、それ以外を B 群とした。両群間で、手術時年齢、術前遠見斜視角、術眼屈折度数、遠見・近見時の両眼単一視の有無、術後初回検査時の遠見斜視角を比較した。また、戻りと上述のパラメータの相関について、スピアマンの順位相関分析(単解析)を用いて検討した。

##### 結果

両群間の比較で、手術時年齢、術前遠見斜視角、両眼単一視の有無、術後初回検査時の遠見斜視角に有意差を認めた。また、手術時年齢、術前遠見斜視角、術後初回検査時の遠見斜視角と戻りに有意な相関を認めた。

##### 考察

術前斜視角が大きく、術直後の内斜視が大きく、低年齢であるほど大きな戻りが生じる可能性がある。

#### 論文審査結果の要旨

間欠性外斜視に対する矯正手術では、術後徐々に眼位が外方に戻り、外斜視が再発することが問題であるが、その原因は不明である。

本研究では、片眼前後転手術症例において術後の戻りに関与する術前因子について検討した。岡山大学病院にて手術を施行した 64 症例を対象とし、20PD (prism diopter) を超える戻りを認めた症例群、とそれ以外の症例群を比較検討した。その結果、手術時年齢、術前遠見斜視角、両眼単一視の有無、術後初回検査時の遠見斜視角において両群間の有意差を認めた。また、手術時年齢、術前遠見斜視角、術後初回検査時の遠見斜視角と戻りに有意な相関を認めた。すなわち、術前斜視角が大きく、術直後の内斜視が大きく、低年齢であるほど大きな戻りが生じる可能性がある。

委員からは、研究対象症例が古い懸念はあるが、同術式の問題点を明らかにした研究であるとの評価であった。本研究は、片眼前後転手術症例の成績改善に繋がる重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。